

<新任教員紹介 (Introduction of New Faculty Members)> 「新任のご挨拶。母校に赴任するまで」

著者	平松 燈
雑誌名	総合政策研究
号	63
ページ	171-172
発行年	2021-09-30
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029818

「新任のご挨拶。母校に赴任するまで」

関西学院大学総合政策学部 教授 平松 燈

私は関西学院大学総合政策学部の2期生です。入学当初は都市政策に興味がありました。また、学際的アプローチに魅力を感じました。在学中は、総合政策学部での学生生活に加え、インドネシア交流セミナーや国連研修ツアー、交換留学(サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学、インドネシア)など関西学院大学のプログラムにも参加しました。プログラムを通じて、上ヶ原キャンパスとの交流ができたことも大切な経験になりました。インドネシアは、人や文化も楽しく、イスラム教徒が多く、面白く思いました。当時はアジアでも経済的には発展途上にある国でした。このことがきっかけとなり、経済の重要性を意識し、途上国の経済開発に関心を持つようになりました。卒業後は、開発について勉強しようと、やはり学際的に研究できる大阪大学大学院国際公共政策研究科に進学しました。修士論文では、日本の都市の経済成長要因について研究しました。今考えると、元々持っていた都市政策への関心と途中から持った経済開発への関心が合わさったようにも感じます。その後、専門性をもちたいと考え、ニューヨーク州立大学バッファロー校に留学し、経済学を専攻しました。専門は都市・地域経済学、交通経済学です。学位取得後は、カリフォルニア大学リバーサイド校で、ポストドクターをしました。直訳すると、持続可能な郊外開発センターというところで、様々な専門性を持った研究者達と一緒に地域経済について研究しました。アメリカは、経済的には大国で、キリスト教を中心としています。様々な人種が居るところで、多様な背景を持つ人々と一緒に学び働くことができました。

ここから少し、研究テーマについて話したいと思います。地域は人々が日常生活を営む場所です。そこには多様な人々がいて、仕事や買物など、色々なことを行いながら日々暮らしています。また、通勤や買物、旅行のために、交通システムを利用して、地域間を移動します。したがって、これらの行動を、財市場や労働市場、土地市場、交通市場などに分けて個別に分析(これを部分均衡分析と呼びます)するだけでなく、それぞれの市場が互いに及ぼす影響を含め、全体を分析(これを一般均衡分析と呼びます)することも大切です。現代社会は過渡期にあり、さまざまな環境変化と対応する地域政策が考えられます。これらはどのように人々の生活に関係するのでしょうか。たとえば、技術進歩にともなう交通システムの発展は、住環境が良く通勤に便利な地域に住みたいと考える人々に対して、どのように影響するのでしょうか。私はこのような疑問に対して、応用一般均衡(Computational General Equilibrium: CGE)という手法で分析しています。数学を利用して作成した経済モデルに、データを適用して実在する都市を再現し、プログラミングにより数値シミュレーション分析を行います。総合政策学部で学んできた私には、ぴったりの研究テーマと思います。

さて、帰国後は、熊本学園大学で教育にあたることになりました。熊本では、地方都市の豊かさや人々の暮らしを感じながら過ごしました。新幹線が通ったばかりの地方経済は、私

にとってよい研究対象にもなりました。また、経済学部地域経済学科で専門の経済学を講義する経験もできました。私が最も貢献できることは、学際的な学部で経済学を教えることだと思い、近畿大学総合社会学部の環境・まちづくり系専攻というところに移り、地域経済学を担当しました。これまで、途上国や先進国、都市と地方、また文化や宗教の異なる地域で、人々との出会いに恵まれてきたと思います。

そして、本年度から、母校の関西学院大学総合政策学部に戻ってきました。20年ぶりの神戸三田キャンパスは、目違えていたり、相変わらずであったりしています。これから、関西学院大学総合政策学部の一員として、皆様と一緒に勉強できることに感謝し、働きたいと思っています。